

保育の遊び場面におけるリスクマネジメントとは

—「リスク」概念の事例への適用—

What is risk management in childcare play?
—Application of the concept of “risk” to precedents—

板東 愛理香
Erika Bando

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 博士後期課程

キーワード：子ども，遊び，リスク
Key words：Child, Play, Risk

1. 研究目的

本研究の目的は、保育における「リスク」概念を、実際の事例へ適用を試み、保育における「リスク」とは何かを明らかにすることを試みることである。では、こうした目的に至った問題の所在を述べていく。

保育の遊び場面において保育者が子どもの遊びの中で捉える危なさのどこまでを許容し、どこまでを止めるのかという判断は容易ではない。というのも、保育施設において保育者が子どもの安全を守ることは無論重要である一方で、子どもの安全を優先して禁止ばかりを増やしては子どもたちが「主体的」¹⁾に遊びを選び経験することを通して育つ機会を阻害することになる。だからといって、子どもがやりたいことをして死亡などの重大事故があってはならない。では保育者は遊び場面における危なさをどのように捉え、子どもたちの安全と育ちの両立を行なっていく必要があるのだろうか。

これまで、こうした保育における安全管理、つまりリスクマネジメントについて様々な分野から研究が行われてきた。医学や安全学の分野から、保育者がどの様に危なさを見つけ出しマネジメントしていく重要性が主張されてきた²⁾。一方で教育学や保育学からは、子どもは経験の中で危なさを学んでいくという主張がなされてきている³⁾。これらはそれぞれの立場から重要性を示すにとどまっており、遊び場面における危なさの可能性、つまり「リスク」はどの様なものであり、子どもの育ちを踏まえた上で「リスク」をどの様に考えていけば良いのか明らかにしていない。そこで板

東(2022)は安全の国際規格を基に、保育の遊び場面における「リスク」概念の提案を行なった⁴⁾。さらに、板東(2021)⁵⁾は板東(2022)における「リスク」概念を構成する要素の抽出を試みた。だが、抽出した要素は、並列に示された観点にすぎず、実際の状況の中でどの様に作用しているのかは明らかにできていない。

研究の目的は、保育における「リスク」概念を、実際の事例へ適用を試み、保育における「リスク」とは何かを明らかにすることを試みる。そうすることで、これまでの研究とは異なり、保育の実態の即した「リスク」の考え方を提案することができ、「リスク」マネジメントが検討可能になると考える。

2. 研究実施内容

今年度行ってきた内容は大きく分けて三点ある。まず一つ目として、研究方法論の整理がある。柴山(2023)は、「『研究アプローチ』と言っても、その分類の仕方には研究者による違いが見られる。」⁶⁾と指摘した上で、以下の様に分類を整理している。

研究者	I		II	III		iv
				III-1	III-2	
LeCompte&Preissle (1984/2008) →箕浦(2009) Carr&Kemmis(1986) →Merriam(1998) [2004翻訳]	実証主義的 アプローチ		解釈的 アプローチ		批判的 アプローチ	
野村(2017)	実証主義		解釈主義	批判的実在論		
Lincoln&Guba (2000)[2018a 翻訳]	実証主義	ポスト 実証主義	構成主義	批判的理論とその他		参加型
Prasad(2005) [2018a 翻訳]	(実証主義の 伝統)		解釈的伝統		批判的伝統 「post」が つく諸学派	深層構造 の伝統

図 1. 柴山(2023)「3つの研究アプローチの比較」

こうした分類の上で、本研究における存在論や認識論がどのアプローチに依拠するものであるのか整理していった。そうすることで、本研究で明らかにしたいことが、研究的により精緻になると考えられた。

今回はリンカン、グーバ (2006) を参考とすると、「実証主義」の存在論は「素朴なリアリズム」-「『リアルな』現実、しかしそれを把握し理解し得る」。認識論は「二元論/客観主義:発見物は真」とされている⁷⁾。これを「リスク」を明らかにする上で捉え直すと、“「リスク」は把握し理解することができる”と考えられ、“「リスク」は揺るがない真”であると言い換えられる。つまり、「実証主義」として「リスク」を捉えることで、「リスク」は普遍的で誰が見ても同じ様に捉えられ、「リスク」は把握することができる整理することができるだろう。一律に「リスク」を捉えることで、事故要因を排除していくことにはつながるであろう。だが、実際に日々の保育の中で、保育者が「リスク」を捉え判断していくことが生じる。実際の状況の中にいる人々が、状況をどう感じ行動していくのかによって、その状況が危ないかどうか(「リスク」の捉えられ方)は変わってくる。したがって、「実証主義」のみから保育の「リスク」を捉えることには限界があると考ええる。

では、一方で「構成主義(解釈的アプローチ)」保育のリスクを捉えるとどのようになるだろうか。解釈的アプローチ(リンカン、グーバによる「構成主義」)では、存在論としては「地域的にそして具体的に構築された現実」認識論は「相互作用的/主観主義/つくり上げられた発見」とされている。言い換えれば「リスク」とは地域や文化の中で構築された現実であり、主観・相互に作りあげられるものであり、人々の解釈や相互作用に着目することで明らかになると捉えられる。構成主義の存在論、認識論に立つことで「リスク」は人によって捉え方がことなる。「リスク」はある文化の中で構築されているものと考えることが出来ます。その上で、どのような実践において遊び経験を保障するかに焦点を当てていると考えられます。

だが、その実践で実際に事故が起きたらどうか。個々人の感覚の中で成り立っている「リスク」の考え方だけでは、事故が起きた時点で根拠がないことが問題になる。理論的なデータを基にリスクの形を表そうとせず、人々の解釈から作り上げられた形だけに依拠し「リスク」を考えることもま

た、限界があるのではないかと考える。

つまり、この様に「実証主義」と「構成主義」の存在論と認識論から保育の「リスク」を考えていくと、どちらか一方に依拠し、検討することは、子どもの安全と自由な遊びの両面を保障することには適さないのではないかと考える。「実証主義」に依拠する研究では、保育事故を減らすことが目的であり、できる限り「リスク」を下げることを目的としている。

一方、「構成主義」に依拠していると捉えられる研究は、実践の中でどの様に遊びを保障しているのかを明らかにしようとしている。これらは命に関わる事故についてと、日々の保育における保育者の判断についてが、別々に論じられているのではないかと考える。命に関わる事故に焦点を当てているものでは、保育者が判断時に迷う様な状況は扱われておらず、反対に実践の中でどの様に保育者が遊びを保障しているのかという点に焦点を当てるものでは、命に関わる事故がなぜ起きているのか、と言ったデータや枠組みは扱っていません。ですが、これらを別々に考えては“死亡事故を減らすために「リスクを下げる方法」”が言われ、一方で“遊びの保障のために、一概に「リスク」を下げることは良くない”と言われ、両者からそれぞれの主張が言われるという状況から脱却することができないであろう。そこで、子どもの安全と自由な遊びの尊重を両立するためには、客観と解釈の両側面を合致させた上で考える必要があるのではないかと考える。

この様に、本研究の位置づく研究的立ち位置を、社会学における研究方法論(主に「実証主義的アプローチ」、「解釈的アプローチ」、「批判的アプローチ」)からどのように整理できるのか、検討を重ねていった。その結果、本研究は実証主義的アプローチと解釈的アプローチ両者の側面を持っている研究であると考えられた。これらの立場を混合させた研究方法論の中で、本研究に適しているものを現在さらに吟味している。

そして二つ目に、データの収集である。対象園の選定をした上で、計5日間の調査を行った。保育室内にビデオカメラを4~5台用い、本研究が対象としている大型の箱積み木を使って遊んでいる場面を記録した。また、保育後に保育者へインタビューを行った。

三つ目は、データの分析である。収集した映像データの情報を、板東(2021)における「リスク」

概念を枠組みとして用い、時間経過に沿って映像に映る情報を図に示し整理していった。基本的にはパワーポイントにおける一枚のスライドを3秒とし、遊び状況における「リスク」がどのように変化しているか、可視化を試みた。現在は、図に示した映像記録の情報を、さらに分析し結果を抽出していくための方法を検討している。

3. まとめと今後の課題

本研究の目的は、保育における「リスク」概念を、実際の事例へ適用を試み、保育における「リスク」とは何かを明らかにすることを試みることである。そのために今年度は、研究方法論の整理、データの収集、データ分析方法の検討を行ってきた。

今後は、データの分析をさらに進める中で、依拠する研究方法論の位置付けを整理し、本研究の意義をより明確にしていきたい。

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成 (DA2305) 「保育の遊び場面におけるリスクマネジメントとはー「リスク」概念の事例への適用ー」を受けたものです。

引用文献

- [1] 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領解説。フレール館。
- [2] 西田佳史 (2019) 保育・教育施設における事故予防と実践。中央法規出版。
- [3] 大坪龍太ら (2011) 子どもの遊び場におけるリスクの効用に関する調査研究。こども環境研究, 7(1), 86-91.
- [4] 板東愛理香 (2022) 保育の遊び場面における「危険性」概念の構造。保育学研究。
- [5] 板東愛理香 (2021) 遊び場面におけるリスクマネジメントー大型積み木を使用する初期段階の事例を通してー。
- [6] 柴山真琴 (2023) 異文化教育研究における方法的確かさに向けて。異文化間教育 57号 74-88.
- [7] リンカン, Y.S., & グーバ, E.G. (2006) 「パラダイムに関する論争、矛盾、そして合流の兆候」デンジン, N.K., & リンカン, Y.S. (編) 平山満義 (監訳) 『質的研究ハンドブック 1巻』北大路書房。145-166.